

## 全国大会

2016年10月29日（土）、30日（日）の二日間、大分県別府市にある別府国際コンベンションセンター B-C O N P L A Z Aにおいて「2016年少林寺拳法全国大会 in おおいた」が開催され、競技の部21種目、発表の部8種目に全国より約2600名の拳士が出場した。本大会のテーマは「未来へつなぐ“人 夢 心”豊の国から」。これには全国から集結した多くの拳士【人】と共に、全国大会という【夢】の舞台を、開祖の志を受け継ぐ【心】を結集し、未来へ繋げていくという思いが込められている。

初日、一般財団法人少林寺拳法連盟川島一浩会長による挨拶が行われ、大会がスタートした。この日は一部競技種目の予選が行われ、本選を目指して各コートで白熱した演武が行われた。

初日夜には、別会場にて祝賀会が行われた。来賓各位のご挨拶の他、地元郷土芸能の披露が行われ、和気藹々とした雰囲気の中、出席者同士懇親を深めていた。後半にはサプライズの催しや、プレゼント等が行われるなど、様々に趣向を凝らした内容であった。

二日目は各競技種目の予選・本選、発表の部が行われるとあって、会場は多くの立ち見が出るなど、熱気に包まれた。開会式後、各演武種目に先立ち「弁論の部」最優秀者2名の発表が行われ、心を打つ内容に会場全体が真剣に聞き入っていた。

続いて各コートで競技の部・発表の部の各演武種目行われ、出場拳士は日々の修行の成果を発揮し、気迫のある演武が繰り広げられた。演武前には皆一様に緊張している様子であったが、演武後は安堵の表情を浮かべ、お互いに握手をしたり抱擁したりしている姿が多々見られた。出場者からは「緊張した」「演武が気持ちよかった」「最高の舞台だった」などの声が聞こえていた。

全種目終了後に行われたフィナーレでは、九州各県で構成されている九州連絡協議会による九州各県の理事長、副理事長他の演武が披露された。その様子は、大会パンフレットやポスターにも書かれていた「九州はひとつ 熊本・大分は負けない」を象徴している演武であった。その後、熊本・大分地震復興支援として本大会で募った募金が、九州各県を代表して熊本県連外川理事長に手渡された。

そして最後に宗由貴総裁より挨拶が行われ、本大会が終了した。

大会後は、記念写真を撮ったり、お互いに健闘を称えあう姿が遅くまで見られた。本大会では、主管の大分県連はもとより、九州各県の協力のもと、九州全体が一体となって大会が運営された。大会前に起きた数々の天災を乗り越えて開催された本大会は、心に残る大会となった。



# 少林寺拳法全国大会 in 別府

主管:大分県少林寺拳法連盟



